

Global Liberal Arts

神田外語大学
グローバル・リベラルアーツ学部

GLA 2027



言葉は世界をつなぐ平和の礎
神田外語大学

Global Liberal Arts

英語 × 課題解決

「英語」と「課題解決」をキーワードに
世界の未来を切り拓く



リベラルアーツ なぜ今、GLAなのか？

複雑で変化の激しい今、世界で最も注目されている学問領域のひとつが、リベラルアーツです。グローバル・リベラルアーツ (GLA) 学部では宗教、歴史、哲学、社会、共生、グローバルスタディーズといったさまざまな学問分野を横断的に学び、幅広い教養を身につけ、「一人ひとりが思い描く社会」を実現するための力を育みます。

もちろん、世界の人々と議論できるレベルを目指した英語教育も徹底。授業は教員と学生同士の対話型が中心で、議論のない授業は少数。だからこそ「問いを立てる力」「論理的に考える力」「共感し、協働する力」が鍛えられ、学生にはポジティブな思考力が身につきます。そして学生が卒業後も成長し続ける——。それがGLAの大きな特徴です。

英語 × 課題解決 学びの最前線

なぜ今、GLAなのか
Message from Faculty

グローバル・ リベラルアーツ学部で学び、 世界で活躍する人間へ

GLA学部における学びは、GLA学部の学生一人ひとりが自ら創りあげるものです。

そのため、GLA学部ではみなさんの学びを後押しする多彩なカリキュラムを提供しています。入学直後の、自分で課題を発見するグローバル・チャレンジ・ターム、広範なリベラルアーツを学ぶことができる教養・研究科目、高度な英語力を究める英語授業、異文化のなかで自身を成長させることができる2回の海外経験、そして、学びの集大成としての研究演習と卒業研究。

GLA学部での多様な経験を通して、自分に何ができるのか、何をすべきなのかという問いに向き合ってください。その気づきや発見が、ご自身の将来へと結実していきます。

みなさんの学びのフィールドは、まさに“世界”です。でも、GLA学部で学ぶことで、世界で起こっているさまざまな課題は、実は、みなさんが手の届く、身近なところにもあることに気づくでしょう。一方で、身近な課題が実は世界とつながっていることにも気づくはず。また、留学を通し海外で感じたことから日本について新たな発見をすることもできるでしょう。GLA学部の学びは、常に世界とつながっているのですから。4年間の研鑽で自身の目標を見つけ、社会と向き合う人に成長できることを、切に願っています。

教授/学部長
金口恭久
Yasuhisa KANAGUCHI



教授/学科長
河越真帆
Maho KAWAGOE



#EU

#環境政策

#グローバル化

EUが実施している諸政策を手がかりに
日本を含むグローバル社会の課題を考える

気候変動や少子高齢化、移民受け入れ、ジェンダー平等など、日本国内には皆さんもご存じのさまざまな問題が横たわっています。いずれも解決への道筋は立っておらず、非常に難しい舵取りが迫られているものばかりです。

こうした状況下にあるのは日本に限ったことではなく、世界各国が懸命に取り組んでおり、欧州27カ国が加盟するEUでも民主主義の姿勢を守りながら問題解決を模索しています。なかには日本より一歩先に進んでいる事案もあり、その模索の過程には見習うべき点が多くあります。EUへの理解を掘り下げることでグローバル、リージョナル(EU)、ナショナルという、多面的な関係性についても考える力を修得できます。そして、1年次の海外スタディ・ツアーで訪問するリトアニアは、EU加盟国です。リトアニアにアプローチする際には、まずEUを学ぶと理解が進むと思います。

今の段階でEUや社会問題に距離を感じたとしても、気負う必要はありません。GLAの教職員や学生は、価値観や宗教、習慣など、多様なバックグラウンドを持っていますので自然と多様性になじみ、他者への寛容性が培われていきます。また、GLA独自のカリキュラムによって「考える・行動する・つながる」力が伸長し、課題解決能力の向上が可能になります。まずは行動し、行動しながら考える4年間を積み重ねることで、知識や語学力を修得するとともに交渉術や粘り強さなどを身につけていくことでしょう。

今や、場所を問わずネットで世界とつながれる時代ですから、活躍の場は皆さん次第で広がります。ここでの知見を活かして日本を注視し、世界に思いを馳せ、自分の関心事からアクションを起こしてください。広大な世界のようにご自身の心を広く持ち、GLAから羽ばたいていく皆さんを応援しています。

未2回「地域とグローバル世界II」
第12回 EUと世界の環境政策

(2)ECの時代(続き)
1987年 1992年の域内市場統一を目指し、ECの統合を完成させるために作成された「第一欧州議定書(Single European Act 1986)」に、初めて環境に関する規定が取り入れられる。
(第一欧州議定書で、環境の維持や保護が目的として規定されることで、EC環境政策の法的根拠が与えられることになった。)

1 ヨーロッパと環境問題

- ▶ ヨーロッパは、環境先進国(スウェーデンやデンマークなどの北欧諸国、およびドイツなど)を多く抱える地域。
- ▶ EUとしても「持続可能な発展(sustainable development)」を目指す取り組みを展開。(環境政策=EUの政策の中でも成果が出ている重要政策)
- ▶ ヨーロッパでは、環境分野が重要な成長エンジンの一つ。

例: 環境製品や環境サービス関連の雇用は290万人から430万人に増加(2000年~2012年)

#イノベーション

#社会学

社会学を軸として

リベラルアーツの感性を磨き

いまと未来を生きるビジョンを描く

いつでもスマホが使える、コンビニで買い物できるなど、私たちは普段意識することのない“当たり前”の上で生活しています。その“当たり前”に焦点を当てるのが「社会学」です。食料やエネルギー、さらにはデジタル技術。私たちはどのような基盤の上で生きているのか、過去の人はどう生きてきたのか、そして私たちは今後どのように生きていきたいのか。授業の90分間は教員を含めた全員での学び合いです。リベラルアーツの感性を磨き、未来のビジョンを共に描きましょう。



#SDGs



教授/学長補佐
石井雅章
Masaaki ISHII

身近な問いの根本を探り、
哲学者たちと「対話」し、
自由な思考を生み出していく

私たちは問いに対して、すぐに答えが出ることがよいと考えがちです。他方、「なぜ、それを問うのか」と問い直すことは少ないでしょう。ですが、問い直して見えてくる別の問いこそが重要であることは多いのです。哲学が扱うのはそのような問いですが、それを発見し、探究していくことは容易ではありません。そのため授業では、古代から現代までの様々な哲学者を紐解きます。彼らに正しい答えを求めるためではなく、彼らと「対話」するためです。何を問い、どのように考えたのか、どうしてそういう考えに至ったのか。自分にはなかった哲学者たちの視点や思考と出会い、ともに考えます。対話の旅から舞い戻った時、皆さんは以前とは違った仕方、より自由に問い、考えることができる自分自身を発見するでしょう。他方で、短絡的に答えを出すことの危うさにも自ら気づくでしょう。AIやインターネットからは決して得られない学びが、哲学の授業にはあります。

#問いを深める

#哲学

#西洋思想



教授
植田かおり
Kaori UEDA

#戦争と平和

終わらなき平和追求を

#国際関係

「平和のためのことば」で

#安全保障

考える

学生から時折、「平和はいつ来るのでしょうか?」という質問を受けます。私は「平和の追求には終わりがありません」と答えます。それは、戦争や紛争には終わりが無いからです。その終わらなき平和追求のロードマップは、決して一つではありません。国を守ることに重きをおく人もいれば、国連の視点で考える人、NGOや企業などの民間団体を通して支援する人もいます。いずれも平和を追求する道です。その裏で、現実には各々の立場が抱える問題や課題、利害などが複雑に絡んできます。このような国際関係についても併せて考えていきます。GLA学部の学生はこうしたテーマに感度が高く、1年次から活気あるディスカッションが繰り広げられます。こうした場で、私は皆さんの直観力を大切にしています。学びと知識を大事にしながら、自分で考え、言葉にして発言する力が、平和を追求するための必要不可欠なスキルになります。「平和のためのことば」をぜひ身につけてください。



教授
阪田恭代
Yasuyo SAKATA

#ビジネスコミュニケーション

#グローバルキャリア

#国際ビジネス

異文化への理解と「伝える力」を養い

グローバルに活躍できる人材へ

国際的な日本企業約150社を対象としたあるアンケート調査では、ビジネスの現場で発生しやすいトラブルとして、「誤解」や「認識のずれ」が最も多く挙げられています。このようなfriction(摩擦・衝突)をできるだけ未然に防ぎながら、起こった時にも対処できる人材が、社会で広く求められています。

約20年にわたる海外勤務の経験から、私はこうしたfrictionを乗り越えるには2つの点が必要だと考えます。一つ

は異文化への理解。相手の国・地域の歴史や文化的背景を知り、どのような価値観や感覚を持っているのかに配慮することです。もう一つは「伝える力」。自分は何を考え、何を大切にしているのかを言葉にし、相手を巻き込みながら物事を前へと進めていく姿勢です。この2つの点を授業で学びながら、異文化への感受性を高め、外国人との信頼関係を築く力を養います。ここでの学びを通じて、海外と関わるキャリアの魅力を感じて理解してもらいたいと思っています。



特任教授
柴田真一
Shinichi SHIBATA

#多様な世界観

#イスラーム

#宗教的なもの

宗教学的アプローチで問題を捉え直し
他者に対する理解と共感を深める

近年、イスラーム圏にルーツを持つ学生やムスリムの友人を持つ学生が増えています。一方、イスラームに対する私たちの理解は、残念ながら未成熟です。授業は最初から宗教学の核心に飛び込むのではなく、イスラームやキリスト教、日本の事情も含めて具体的な事例をもとに、“違い”や“共通点”を考えることから始めていきます。意見発表や議論を交え事例を捉え直すことで、共感や理解が深まり、本質的な課題にたどり着きます。こうしたアプローチは時代や地域、民族を超えた「人間の普遍性」にふれる貴重な学びでもあります。



教授
吉田京子
Kyoko YOSHIDA

#学習者オートノミーの育成

#自己アクセス型英語学習

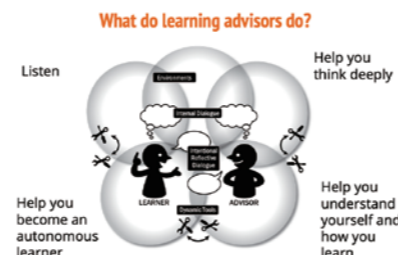
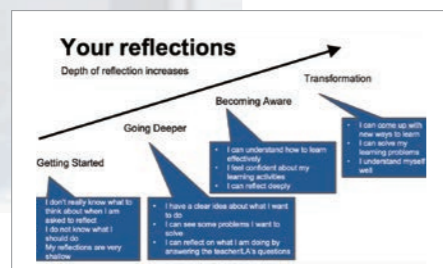
#言語習得の心理学

自分専用の学習計画と自律学習により
効果的な英語スキル向上をめざす

私が進める英語学習では、学生自身が自分に適した自分専用の学習計画を作成し、その計画に沿って自律学習を中心に進めていきます。この学習方法は、学生の自主性を育み、学習のモチベーション維持にも有効です。計画設定にあたっては、効果的な目標設定や教材の選び方、学習成果の評価などで、皆さんを支援します。4年間で培った英語スキルは、生涯にわたって皆さんご自身の生活を豊かにすることでしょう。英語を学ぶ楽しさや自律学習のやりがいを感じながら、ご自身の成長をしっかりと実感してください。



教授
Joanne MYNARD
(ジョアン マイナード)



#思想

#日本文化

#倫理

傷つくことを入り口に
内なる自分と対峙して
人生の問いを考える学問にふれる

「倫理」や「思想」と聞いて、具体的に何を学ぶ学問なのか、疑問に感じる人もいるかと思いますが。私は「傷つくことが問いの入り口」だとお伝えしています。人は傷つくと、苦しみ、悩み、割り切れなさを感じます。それこそが倫理的な問いの始まりであり、裏側から言えば、傷つかなければ問いは始まらないとも言えるでしょう。傷つくことに意味を見出し、その傷の意義を考えることが、倫理や思想という学問へつながると、ひとまずは考えておきましょう。この学問において傷つくことは、生きることも死ぬことも含めて、自分の人生を問う上でとても大事なことなのです。授業は、情報を一方的に与える講義形式ではなく、内なる自分と真正面から対峙して自分の問いを見つける時間となります。そのため、時に厳しさも伴います。ですが、この学問でたどり着いた問いは、皆さんの長い人生に有意義な意味をもたらすでしょう。そうなれば、問うことの原点を学ぶ貴重な機会にできたと言えるかもしれません。



准教授
上野太祐
Taisuke UENO

#多様な社会での共生

#文化と教育

#言葉の多角的な捉え方

日本社会での共生を日本語表現から考え、
具体的な解決の方策を模索する

日本語の表現を切り口として「日本社会での共生についての課題」に取り組んでいます。基礎的な理論を学んだ後、実践力に繋がるよう授業を進めています。授業では普段使っている日本語表現を「やさしい日本語」を用いて再構築していき、学内の留学生と交流します。もちろんうまく伝わらないことも珍しくありません。しかしそこではじめて、これまで自分や自国文化の基準を用いていたことに気づきます。日本社会での共生の観点から、自国文化の基準で判断しない意識を持つ方法をクラスメイトと対話を重ねながら模索していきましょう。



准教授
釜田友里江
Yurie KAMATA



#歴史

#ナショナリズム

「当たり前」がつくられる過程を掘り下げ
多角的に問い直す
リベラルアーツの歴史学

高校までに習う歴史は、暗記科目の側面が強く、史実の把握にもつぱら力が注がれます。大学以降の歴史学は、それぞれの出来事が起こった要因や背景を掘り下げ、多角的に検討していきます。現代で当たり前が存在する自動車やスマートフォンも、社会や国家の仕組みも、国連のような組織も、それこそ「〇〇人」のような集団の意識や概念も、「もともとあった」わけではありません。実際には多くの人がそれぞれの思いをもって、さまざまに関わりながら、長い時間をかけてできたものです。そうした「当たり前」がつくられてきた過程にスポットを当て、問い直すことが歴史を学ぶ醍醐味であり、その発見や思索を他の学問ともつなげてみるところにリベラルアーツならではの楽しさがあります。

#紛争



准教授
鈴木健太
Kenta SUZUKI

#多様性

#共生社会

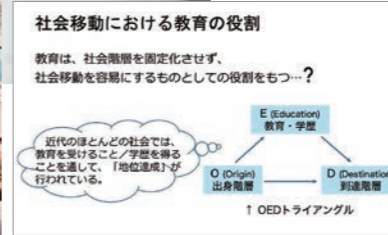
#格差・不平等

多様さを増す社会の構造を見つめ
理想論に終わらない共生を探究する

多様な人びとが共生する私たちの社会には、明らかな答えのない問題や、簡単には解決できない課題が多くあります。そのなかでも私の授業では、社会階層・格差や、エスニシティ、ジェンダーに関わる問題や課題について、日本や世界のさまざまな立場の人びとの経験にふれることに加え、社会の構造にも目を向けながら考えています。そこに生きる人びとがよりよい生活を送り、よりよい人生を歩んでいくために、社会はどう変わることができるのかという視点をもって、理想論で終わらない共生の探究に取り組んでいきたいと思っています。先人の知や他者の意見をふまえて自分の考えを磨き、現実社会の課題に向き合うための準備を一緒にしていきましょう。



講師
田中李歩
Riho TANAKA



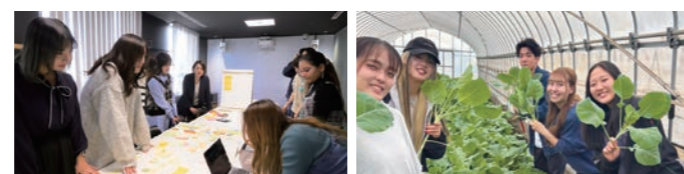
#法学

#グローバル・ガバナンス

#国際開発学

世界政府なき地球の市民として
深刻化が増す地球規模の課題に挑む

気候変動、移民・難民、紛争、グローバルな貿易。こうした諸問題は、地球規模で解決すべき課題です。しかしながら、地球には「世界政府」は存在しません。地球規模で発生している課題に対し、グローバル社会はどのように対応すればいいのか、私たち一人ひとりにはどのように行動すればいいのかを考えるのが、グローバル・ガバナンスという学問分野です。私たちが生きるこのグローバル社会は絶えず変化し、新たな課題も生じてきています。地球の反対側で起きている事象は、遠くの問題ではなく、私たちの日々直結する「同じ地球で起きている」課題でもあります。同じ「地球市民」として、この地球をよりよく・より平和に・より素晴らしい場所にしていくために、ともに問題解決の道を探っていきましょう!



准教授
高橋麻奈
Mana TAKAHASHI

#クリティカル・シンキング

#アカデミック英語

#グローバルコミュニケーション

自己の英語力を常にreflectionで把握し
自分自身で語学レベル向上の課題を見出す

日本は世界とともに急速に進化しています。その中で多様な人々と理解を深めるには、単なる言語習得では不十分です。必要なのは、英語を強力なコミュニケーションツールとして活用し、自分の考えを英語で難なく発言できるレベルです。語学力を向上させるには、語学に対する自分の興味や目的を常に意識し、reflection(振り返り、内省)を頻繁に繰り返すことが欠かせません。英語を学ぶ目的も、これまでに培った英語レベルも、適した学習スタイルも、一人ひと



講師
Isra WONGSARNPIGOON
(イスラ ウォンサーンピグーン)

りと違います。ですから、自分を振り返り、自分は何ができ、何ができていないのかを把握しておくことが大切です。そこから次にすべき課題が明確に見えてくるのです。私は以前にSALCでラーニングアドバイザーを務めていました。その経験を活かし、皆さんに寄り添った最大限のアドバイスを心がけています。皆さんが英語で現実社会の課題に取り組み、世界中の人々とつながるナビゲーターに成長してもらえたら嬉しいです。

Diverse Members

GLA学部には、さまざまなバックグラウンドをもつ学生が集まります。多様な文化や価値観にふれながら、仲間たちと意見を交わす日々を過ごすことで、学生は自然と世界を多角的にとらえる視点を身につけます。

将来の目標は国際的な社会問題を映像で発信!

世界の官僚制度に影響した中国の科举制度を研究中!

今は海外就業体験で知ったフェアトレードに夢中。

将来は日本語・英語・タガログ語の話者として貢献!

将来の目標は、在外公館派遣員として働くことです!



ポウディヤル ジョエル
POUDYAL JEWEL
GLA学部 4年 ルーツのある国:ネパール
母国ネパールで学校に行けない子どもたちを見て問題意識を持ち、多様な環境で国際的な視野を広げたくまりました。



シュミッターローエー タイモシー
SCHMITTERLOEW TIMOTHY
GLA学部 4年 ルーツのある国:スウェーデン
長く習ってきた日本古武術を本格的に極めながら、大学で国際関係を専門的に学びたくて、GLA学部の入学を決めました。



中島 クラレンス
NAKAJIMA KURARENZU
GLA学部 4年 ルーツのある国:日本・フィリピン
1年次に私が立ち上げた「アカデミック・カンファレンス」。学生同士の活発な意見交換の場としてこれからはGLA学部に根付いてほしい。

貧しい人を助けるような仕事をめざして入学を決意。



コール マッシュミー
KAUR MESHMEEN
GLA学部 2年 ルーツのある国:インド
価値観は違っても会話は諦めたくない!そんな思いから、価値観とコミュニケーションの関係性や改善点を研究予定です。

自分の「好き」を堂々と学問にできる環境に幸せ実感。



見谷 恵麻
MITANI EMMA
GLA学部 2年 ルーツのある国:日本・アメリカ
卒業研究のテーマは、漫画や歌手、VTuberの推し活で興味を深めた「オタク用語」と社会規範のつながりです!

日本語・英語・韓国語を話せる私の将来を模索中。



阪村 美裕
SAKAMURA MIYU
GLA学部 2年 ルーツのある国:日本・韓国
パキスタン在任時に児童労働や貧困の現実と衝撃を受けました。今は教育問題や環境問題も含めて幅広く学んでいます。

大学卒業後の将来像はキャビンアテンダントの私!

海外留学で自分の視野や考え方を広げていきたい!

好奇心旺盛な仲間にも恵まれ、互いに高め合う毎日です!

他大学にないGLAの学びで自分の個性や好奇心が拡大!

広い世界に出て人々をつなぐような仕事に就きたい!

スタディー・ツアーでの経験が自分の考えをより深めた!



ソリヴェン マリーキルステン ラミレス
SOLIVEN MARY KYRSTEN RAMIREZ
GLA学部 1年 ルーツのある国:フィリピン
環境ホルモンが周辺環境に与える影響を研究中。ディスカッションやプレゼンの機会が多く、発表スキルも成長中です。



アパウ ダニエラ キェレマ
APAU DANIELLA KYEREMAA
GLA学部 1年 ルーツのある国:ガーナ
GLAの学びから心理学と異文化交流に関心が芽生えました。今後は人の行動や価値観の違いへの理解を深めています。



津村 キャンディス
TSUMURA (DUFOND) CANDICE ICHIGO
GLA学部 1年 ルーツのある国:日本・フランス
人々が生きやすく、ともに支え合える社会の実現に向けて、人の心理的側面にフォーカスした研究を希望しています。



磯崎 未来
ISOZAKI MIRAI
GLA学部 1年 ルーツのある国:インドネシア
本場フランスのカフェ文化を通して世界中の人とつながりたい!おいしいエスプレッソのカフェを世界各国で開業したい!



アマド アニカ
AHMED ANIKA
GLA学部 1年 ルーツのある国:パキスタン
人はなぜ他人種を画的に決めつけ、真実を知ってもなお差別を続けるのか。多文化共生の真の可能性を追求したいです。



吉野 笑美利
YOSHINO EMIRI
GLA学部 1年 ルーツのある国:日本・ロシア
世界を多角的に捉える力を養うためGLA学部へ。女性のエンパワーメントを軸に、日本社会との比較を通して男女平等の在り方を探究したいです。

Diverse Members

さまざまな背景や価値観をもつ仲間が集うGLA学部。
 その中で学ぶことが、自分の夢へとつながっていきます。



交換留学生
 キャシディ・アレーン・プリンス
 Cassidy Alleyne-Prince

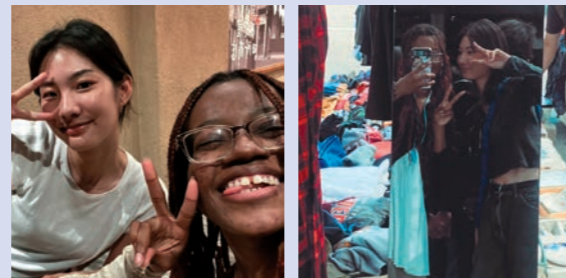
GLA学部の学生との交流をきっかけに留学を決意。 KUISの素晴らしい環境で日本語と日本文化にふれる。

SUNYでの専攻は美術、副専攻はアジア文化ですが、特定の国に興味があったわけではなく、海外旅行すら未経験でした。そんな私が日本留学を決意したのは、GLA学部から留学してきた未羽さんとルームメイトになったことから始まります。最初は彼女を驚かせるために日本語を学び始めたのですが、Purchase校が神田外語大学の素晴らしさを紹介していたことで留学に興味が高まりました。未羽さんからも「言葉だけではなく、文化や環境も親しめるよ」と長期留学を勧められ、1年間の交換留学を選びました。留学前から楽しみだったのはLPP(Language Practice Partner)サービスです。これは、多くの学生とパートナーを組み、カジュアルな会話から言葉を学べるサポート制度です。おかげで緊張せずに日本語が練習でき、パートナーも生け花に詳しい方など多彩で、有意義な時間を過ごしています。また、通常の授業もユニークで、「Introduction to Japanese Society & Culture」では学生同士で日本文化の情報交換を行い、茶道やよさこいを知るなど、楽しみながら日本への理解を深めています。

在籍校



Purchase College (SUNY)
 ニューヨーク州南部(ウェストチェスター)



ルームメイトの未羽さんとは日本でも仲良くしています！

神田外語大学で教員アシスタントをして自分の夢に挑戦中！

私には「国際的な環境で誰かに何かを教えたい」との夢があります。留学して出会ったGLA学部の高橋麻奈先生が授業のアシスタントを探していると聞き、学校の教師になろうという自分の夢に直結する経験ができればと自分から希望しました。アシスタントの役割は、公用言語が英語の授業中に、ディスカッションなどで生じる学生間の語学力のギャップを埋めるというものです。GLA学部の先生は学生に率先して話しかけ、学生同士のディスカッションを促している方が多いので、私も先生方に見習って自分から積極的に話しかけ、英語でのコミュニケーションがスムーズに進むよう心がけています。学生の皆さんが何かひとつでも「今日はこれを学んだ」と実感できる授業になれば嬉しいです。



GLA学部の学生は知識が豊富で、私も勉強になります。

GLA Features

教員や仲間との対話を重ねながら、多様な学問分野を横断的に学び、
 自分の問いを見つけ、社会と向き合う力を育てていきます。



Pick up

グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ 「戦争と平和について考える」回

コーディネーター
 教授 石井雅章 Masaaki ISHII
 准教授 鈴木健太 Kenta SUZUKI



Kenta SUZUKI

幅広く学問分野に接しながら自分の 興味関心を見つめ専門的な学びへつなげる

1年次前期に開講されるグローバル・リベラルアーツ入門Ⅰは、毎回異なる教員が授業を担当するオムニバス形式の科目です。教員がそれぞれの専門分野をもとにテーマを設定し、講義やディスカッション、資料などを組み合わせながら、グローバル時代に必要となる教養にふれていきます。各回で扱うテーマは多岐にわたり、たとえば「戦争と平和について考える」回(担当: 阪田恭代教授[国際関係学])では、平和や戦争との向き合い方を考えます。まず「平和」という言葉から思い浮かぶイメージを出し合い、戦争とは何か、もし自国が攻撃を受けたら自分はどうするのかについての話し合い。そのうえで、理想主義と現実主義という2つの視点から、平和とどう向き合うのかを考えていきます。授業の進め方や扱う題材は教員によって異なり、学生は多様な視点や学び方に出会います。専門的な学びへの入口として、さまざまな学問分野に接しながら、自分の関心を見つめ、広げていく授業です。



戦争の現実を伝える映像資料を見ながら、平和とは何か、もし自分が当事者ならどう向き合うかについて考えをめぐらします。



仲間と意見を交わし、互いの考え方の違いに触れながら、ものを多角的に捉える視点を育てていきます。

GLA Features

一人ひとりが自分の関心を軸に学びを深めるグローバル・リベラルアーツ学部では、その数だけユニークな研究テーマや社会につながる活動が生まれています。



身近な興味を自律学修で
研究に昇華する宗教学的探究

吉田京子ゼミ

#宗教学 #イスラム学 #自律学修

今の世界や社会を宗教学的視点で捉え直し、学生自身の視野を広げていきます。当ゼミは自律学修スタイルです。学生は自分の関心に基づいて自由にトピックを探しますが、関連する知見を深めるための文献講読は必須です。その知見から卒業研究の方向性を定め、プレゼンなどで理解と造詣をさらに深化させます。学生自身の興味からスタートするため、自分の周辺には卒業研究に値するほど価値あるものがあふれていることに気がつき、研究の普遍的な意義を発見できます。



地球課題の解決策を
「そうぞうりょく」でデザイン

高橋麻奈ゼミ

#グローバル・ガバナンス #開発法学
#プロジェクト型制作体験

地球規模の諸問題から学生たちが関心を寄せるテーマを取り上げ、具体的な解決策をデザインしていきます。2年次の「研究演習I」では、グループでの共同プロジェクトで、制作を行います。今までは世界の水問題についてのショートフィルムや、難民問題をテーマとしたボードゲームを制作しました。この過程を通じて、学生たちは研究手法(問題提起・分析・解決策デザイン)について学びますが、同時に、協働力や問題解決力に加え、マネジメント能力も養えます。



サステナビリティから広がる
多様でユニークな卒業研究

石井雅章ゼミ

#環境社会学 #サステナビリティ学
#問いの言語化から研究へ

「サステナビリティの実現」が全体テーマですが、アイシャドウや昆虫食の制作、地方の若者流出問題など、多様でユニークな卒業研究が揃っています。教員からの助言に加えて、学生同士が学び合い、助け合いながら質を高めることを意識しています。重要なのは、学生自身が抱えている問いの言語化です。モヤモヤした状態から対話を重ね、言語化に至る過程で研究の土台が固まり、キャップストーンに繋げる問題の言語化は、卒業後もさまざまな場面で役に立つスキルです。



知識と議論で研究を深め
グローバル社会の平和を追求

阪田恭代ゼミ

#国際関係学 #グローバル平和論
#直観力と体系的理解力

グローバル社会が直面している問題を軸に、平和への道程について学生各自が向き合っていきます。学生は議論好きが多く、ディスカッションは直観力の高める良い場となりますが、知識の体系的理解も促しています。知識のない議論は独りよがりの意見に偏りがちです。文献講読で知識の土台をつくったうえで行うディスカッションこそ、学生が卒業研究を深めるための語り場として非常に有意義なものとなるのです。学生はこうした学びから自分の研究テーマを探していきます。



ゼミ交流会を良い刺激に
3つの力で卒業研究完成に導く

釜田友里江ゼミ

#社会言語学 #会話分析
#盛んなゼミ交流会

「ことばと社会」をテーマに、日常会話に問題意識を持つ大切さを考えます。学生は知識のインプットと相談や発表のアウトプットを何度も繰り返し、自らの研究を深めていきます。アウトプットの場として、当大学の外国語学部や他大学との交流会を積極的に設けています。外部からの新鮮な視点やフィードバックは、学生の良い刺激になるためです。卒業論文が完成する頃には、豊かな発想力、高いコミュニケーション力、責任力が身につく、学生の自信にもなります。

学生が立ち上げたプロジェクト

GLA学部の学びから生まれた
2つの課外活動を紹介します。



アカデミック・カンファレンス

学生が自身の価値観や日常の疑問、授業で得た学びをもとに問いを立て、学年を超えた対話を通して考えを深める集まりです。気になったテーマを自ら調べて発表する経験を積めるため、主体的に学ぶ姿勢が育ち、内容を整理して人前で伝える力も自然と身につきます。またディスカッションで多様な視点に触れることで、新たな気づきが生まれます。柔軟で多角的な思考力が養われ、今後の学術的探究やゼミ活動へ発展していく基盤となります。



IRIS

フェアトレードを通じて社会課題と向き合い、自分たちの行動が誰かの未来につながることを実感できる学生団体です。学内外でのフェアトレード製品の販売や啓発活動を中心に、企画立案から、運営までを学生主体で行っています。活動を通して、国際的な社会問題を構造的に捉える視点や、ビジネスとして継続可能な社会貢献の在り方を学べます。マーケティングや企画力も身につく、社会と関わりながら行動する力を養う場となっています。

学びからの アウトプット

キャップストーン・ プロジェクト (卒業研究)

GLA学部での学びを活かし、
一期生たちが選択した
多様なテーマ。
その一部を紹介します。

● 『シーシュポスの神話』における不条理な生と幸福

● ニーチェ思想の前期から後期への転換の考察—生まれ変わったディオニュソス—

● 日本の小・中学校における性教育に関する一考察

● ボスニア・ヘルツェゴヴィナへのハイブリッドな平和構築への導入

● ポストフェミニズム時代とされる現在において、若い女性たちにとっての「愛とセックス」はどのように結び付けられているのか

● 若者が国際教養系学部に通う理由と入学後に困難を抱えないための要件

● 男性か女性としてではなく、〈自分〉を生きる人々

● 共学校出身者と女子高校出身者の性役割分業による葛藤にはどのような違いがあるのか

● 青森県における若者の県外転出から見た人口減少の要因はなにか

● 弱者男性ミンジニー—小田急殺傷事件犯人の反省から問う現代日本社会における男性の生きづらさ

● パレスチナは、誰のものなのか—ユダヤ人とアラブ人のパレスチナをめぐる主張—

● 保護者による「大丈夫」という声掛けと大学生の安心感の関係性—

● なんみんらいふ—ボードゲームで学ぶ、共生社会とは—

● ビジネス場面の交渉における「日本人的配慮」から見た異文化交渉

● 九州圏と関東圏での初対面の会話スタイルの違い—大学生の会話に着目して—

● 日本の私立大学におけるIRの位置付けと課題

● みどりの食料システム戦略はどのような影響を及ぼすのか—生産者と消費者の両方の視点から考える—

● 世界中におけるクマと人間との真の共存を考える—双方の未来のための生息域の線引き—

● インナーブランディングによる企業内外のブランディング統一方法

● サルトルの思想からみる自己関係

● サウジアラビアにおける外国人労働者の雇用問題に関する一考察

● イスラム文化圏における名誉のための暴力

● 中国語と日本語の謝罪表現の特徴

● 学校生活における人間関係の困難—いつメンに着目して—

● 多様な視点から見る障害：日越の障害者支援政策の現状と課題

● オリジナルブレンドコーヒーで表現する花巻市の魅力

4年間の学び

海外での体験と探究を通して「考える」「行動する」「つながる」力を育みます。
英語で世界を学び、自らのテーマを追究する4年間のストーリーを紹介します。

学ぶ目的を見つけるための6カ月

グローバル・チャレンジ・ターム

入学した直後の6カ月間を、全学生必修の海外スタディ・ツアーを柱とした「グローバル・チャレンジ・ターム」とし、学生一人ひとりが「何を学ぶのか」「自分は世界に対して何ができるのか」を考え、めざすべき道を見つけるための期間としています。

◆ 第1ターム

4・5月

基礎と導入

グローバル・リベラルアーツ学部の学びを進めるための導入期間です。教養の基礎と海外スタディ・ツアーのための準備など、「考える」ための準備期間として設定されています。

◆ 第2ターム

6月

事前学習

柱となるのは約2週間の海外スタディ・ツアー。興味のあるテーマで研修先を選択し、世界の現実を感じ、自分の進むべき道を見つけるための期間です。

7月

海外
スタディ・
ツアー

8月

事後学習

Global Liberal Arts

1年次後期からリベラルアーツの学びの本格的スタート

2年次

3年次

4年次

1年次

1回目の海外経験

リトアニア、インド、マレーシア・ボルネオ、エルサレムへ
海外スタディ・ツアー



リトアニア、インド、マレーシア・ボルネオ、エルサレムへと赴く海外スタディ・ツアーは、世界の現実を知り、自分の学ぶ目的を発見する気づきの機会。研修先ごとに人道、歴史理解、対立・紛争・連帯、宗教、多文化共生、サステナビリティといった研究テーマが用意されています。

詳しくはP23へ

Point

徹底的に英語を学ぶ

英語で学び、英語で考える

Academic English

Reading, Writing, Critical Thinkingを英語で学び、単なるコミュニケーションのための英語にとどまらないアカデミックな英語運用能力を身につけ、世界でキャリアをスタートさせる第一歩へとつなげていきます。

Point

課題解決のための教養

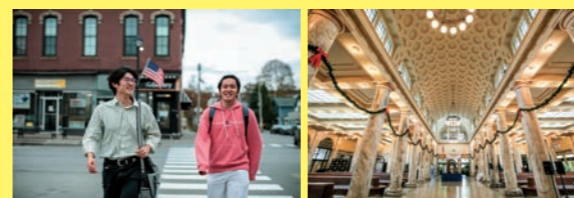
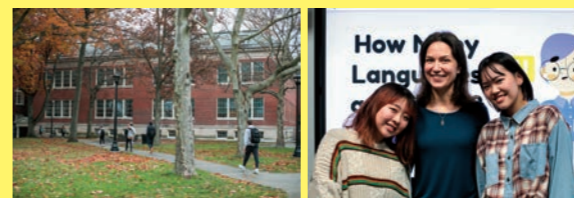
三つの分野

Humanities, Societies, Global Studies

課題解決のための教養を身につけるために、Humanities(人間と文化)、Societies(社会と共生)、Global Studies(グローバル・スタディーズ)という三つの異なる分野の知識と方法を学び、グローバル社会の課題を多角的に捉え考えることのできる力を育てます。

2回目の海外経験

Global Liberal Arts の学びを深める
3年次後期の留学



世界の課題を自分で発見し、解決に取り組む。リベラルアーツを学ぶ学生たちは、ニューヨーク州立大学(SUNY)をはじめ、新しく加わった韓国、リトアニア、マレーシア、フィリピンにある4大学の、グローバルな環境でその学びを深めていきます。世界から集まる学生たちと学び、ディスカッションして磨く教養は、一人ひとりを大きく成長させます。

詳しくはP24へ

4年間の学びの集大成

キャップストーン・プロジェクト (卒業研究)



GLA 学部では卒業研究が必修です。2回の海外経験を通して、幅広い学びの中で本質を見抜く力を身につけ、自分の専門分野を明確にした学生たちが、身につけた知識や教養、問題意識、そのアプローチ方法などを総動員し、キャップストーン・プロジェクトとしてまとめます。

詳しくはP14へ

Point

グローバルなキャリア

グローバル・キャリア

グローバル社会ではマイノリティである日本人が世界で活躍し、自分らしいキャリアを確立するためにはどのようなスキルや態度、考え方が必要なのか。その解を見つけるために世界にインパクトを与えているプロフェッショナルたちをゲストに迎え、キャリアを確立するための思考や態度を、講義やグループディスカッションを通じて学んでいきます。

英語が日常になる

KUIS 8

本学の英語教育を支えているのが、世界各国から招聘された英語教育の専門家組織ELI(English Language Institute/イーエルアイ)と、自律学習を支援するSALC(Self-Access Learning Center/サルク)です。

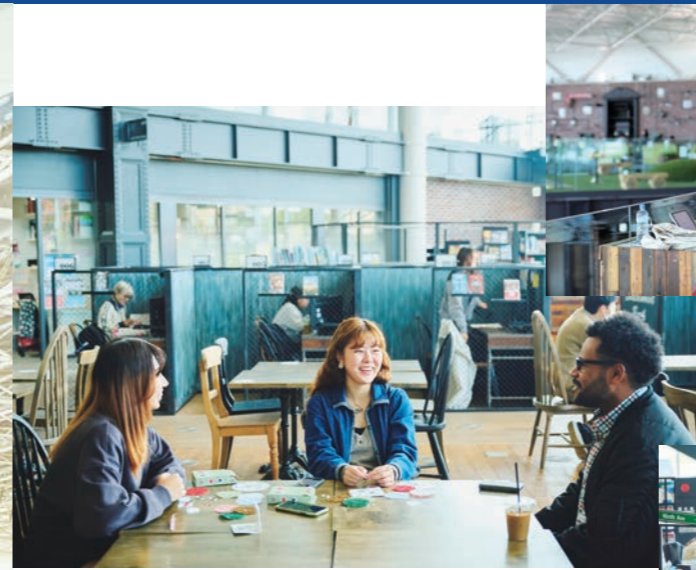
自ら学び、他学生と協働し、課題を主体的に解決していく「自律学習者」を育成する環境

SALC

SALCでは、ラーニングアドバイザーが一人で自律学習をサポート。自分に適した学習方法や教材の活用方法などを気軽に相談することができます。



自律学習がしやすいように個別のブースやオープンスペースなどさまざまな机や椅子が並ぶSALC。自律学習支援を行うラーニングアドバイザーが常駐し、笑顔で学生たちに話しかけ、学習の進め方を一緒に考え、学生自身の気づきをサポートしています。語学学習教材の貸し出しもされているので、1日中過ごせるのも学びが進むポイント。また、1階の入り口近くにはカフェがあり、軽食やドリンクなどが楽しめます。



英語のコミュニケーション能力を、英語教員や他の学生と協働で磨く場

ELI

ELI教員のサポートエリアでは、Writing、Speaking等の指導を行っています。



Cafe

飲み物や軽食を販売しています。勉強の合間や友達とのカフェタイムが楽しめます。

Edutainment Booths

DVD鑑賞スペース。ブースになっているので、周りを気にせず楽しめます。



ASA(Academic Support Area)ではELI教員からエッセーやレポートの作成、スピーキングの練習などの指導が受けられ、さまざまな相談をすることができます。週に何回もASAを利用する学生も多く、神田外語大学の学生にとって心強い味方です。

English

Reading、Writing、Critical Thinking を英語で学び、単なるコミュニケーションのための英語にとどまらないアカデミックな英語運用能力を身につけ、世界でキャリアをスタートさせる第一歩へとつなげていきます。

グローバル・リベラルアーツ学部独自の豊かな英語教育が海外で必要となる三つの能力を育む

GLA学部の英語教育は言語学習の枠を超え、2度の海外経験を成功に導くための三つの能力、言語能力、クリティカル・シンキング(批判的思考力)、英語運用能力の養成をめざしています。

カリキュラムもGLA学部独自のものです。まず基礎的な英語スキルを高めていき、CLIL(Content and Language Integrated Learning)科目で英語をコミュニケーションツールとして使う経験を積みます。これにより、英語の適応力と思考力をスムーズに育むことができます。

入学当初は、ご自身の英語力に不安を覚えることもあるでしょう。でも、安心してください。英語

の自律学習に有益なKUIS 8には、学生のサポート体制が整っています。SALCにはラーニングアドバイザーが常駐し、ELI講師の言語サポートも受けられ、指導教員やGLA学部初年次アドバイザーも皆さんをフォローします。

4年をかけて自律学習に励み、SALCとGLA学部の両コミュニティに積極的に関わることで、英語話者として大きく成長できるはず。私自身、そういう学生の姿をたくさん見えています。

英語学習に正しい唯一の道はありません。GLA学部でご自分に合った成長をつかんでください。



グローバル・リベラルアーツ学部講師
Isra WONGSARNPIGOON
(イスラ ウォンサーンピゴーン)

※CLIL:英語でさまざまなテーマの科目を履修すると同時に、必要な英語運用能力を身につけるためのブリッジ機能をもたせた教授法。

豊富な英語の授業

- Academic Reading
- Self-Directed Learning
- English for GLA I (Introduction to Global Issues)
- Academic Writing
- TOEFL ITP 演習
- English for GLA II (Media Literacy)
- Academic Discussions & Presentations
- Critical Reading
- English for GLA III (Global Communication)
- English for Global Discovery
- Advanced Writing
- English for GLA IV (Peace Studies)
- English for GLA V (Sustainable Development Goals)

グローバル・リベラルアーツ学部での学びや活動を支える英語プログラム



◆時間割

1年次
(前期)
履修モデル

「アカデミック・スキルズ」では大学生活に必要な資料収集の仕方やレポートの書き方などを学びます。

3年次
(前期)
履修モデル

外国語学部の科目の履修が可能です。科目選択の幅が広がり、さまざまな分野について学ぶことができます。

Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.	
● Academic Writing (a)				● Academic Reading (a)		1時限 9:00-10:30
	● English for Academic Purposes (a)	● Academic Writing (a)		● Self-Directed Learning		2時限 10:40-12:10
● Academic Discussions & Presentations (a)	★ グローバル・リベラルアーツディスカバリー I			○ アカデミック・スキルズ I		3時限 13:10-14:40
	● Academic Reading (a)		● English for Global Discovery			4時限 14:50-16:20
		★ グローバル・リベラルアーツ入門 I	● Academic Discussions & Presentations (a)			5時限 16:30-18:00

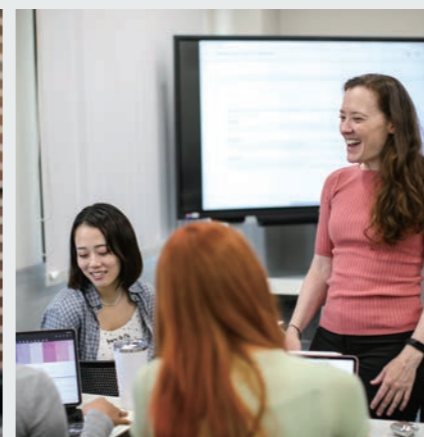
必修・選択必修 ●=英語科目 ○=演習科目 ★=GLA基礎科目

Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.	
	△ グローバル・ガバナンス I		● English for GLA			
○ 購読 (HUM) (歴史)			◆ 言語学 IA			
◆ ビッグデータ解析論	△ 人間と文学		○ 購読 (GS) (地域とグローバル世界)	日本政治論		
				○ 研究演習 II		
★ グローバル・キャリア	△ 社会と多様性 I					

必修・選択必修 ●=英語科目 ○=演習科目 ◆=基礎教養科目 △=専門教養科目 ★=GLA基礎科目

▶ 海外留学で学ぶために必要な英語運用能力

3年次後期の留学に向けて重要なのは、アカデミックな内容を学ぶために必要な英語運用能力を身につけることです。各大学に入学するために必要な英語資格試験をクリアするのはもちろんのこと、現地の学生と同様に学び、単位を取得するためには相当の努力が必要です。そのために設けている授業法の一つがCLIL(Content and Language Integrated Learning)です。これは大学レベルの内容を英語で学ぶために必要な英語運用能力を備えながら、さまざまなテーマを英語で学ぶための教育課程です。GLA 学部では“English for GLA”として5科目を用意し、多様なテーマの理解と英語運用能力の強化、さらにクリティカル・シンキングといった思考力を同時に伸ばしていきます。



Study Abroad

世界を知り、 世界で深める。

2度の海外経験で、課題と向き合い、解決へ導く力を育てる。

世界に広がる多様な現実と直接ふれ、社会課題を自らの目で見て、肌で感じる。グローバル・リベラルアーツ (GLA) 学部では、全学生が必修で2回の海外経験に挑み、異なる文化や価値観が交錯する環境で、学びを深めていきます。

現地での体験は、単なる知識の習得ではなく、「なぜこの課題が生まれるのか」という問いを立て、自ら調べ、仮説を立て、検証していく思考プロセスを磨く場となります。

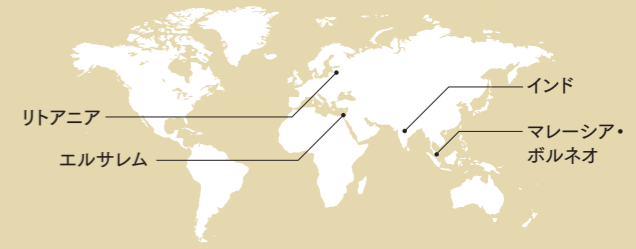
世界の課題を多角的に捉え、解決策を構想する力を育む。それが、GLA学部が大切にしている学びの姿です。



1回目の海外経験

この体験は、きっとあなたの人生観を大きく変える 海外スタディ・ツアー

入学した直後の6カ月「グローバル・チャレンジ・ターム」の大きな柱である、全学生が必修の海外スタディ・ツアー。海外研修先はリトアニア、インド、マレーシア・ボルネオ、エルサレム。貧困と格差、戦争と平和、宗教と民族といったテーマをもとに研修先を決め、現地で暮らす人々とふれ合い、話し合い、多様な価値観を感じ、自分が進むべき道を見つける機会となります。



多文化共生

宗教 / 多様性 / その他

インド
【留学先大学】
シンバイオシス国際大学

IT大国として経済が急速に成長している一方で、深刻な貧困などの問題を抱えているインド。多様性や教育格差を肌感覚で理解しながら、「貧困と格差」や「多文化共生」について学習する。



人道

歴史理解 / 対立・紛争・連帯 / その他

リトアニア
【留学先大学】
国立ヴィータウタスマグヌス大学

エストニア、ラトヴィアと共にバルト3国の一つ。第2次世界大戦時にはソヴィエト連邦への編入やナチス・ドイツの占領を受けた歴史を持つ都市で、世界平和の実現に向けた取り組みなどを学ぶ。



宗教

歴史理解 / 人道と支援 / その他

エルサレム^{*}
【留学先大学】
国立ヘブライ大学

過去幾多の迫害にあったユダヤ人が建国したイスラエルの中心地であり、同時にユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地。「宗教の多様性」や歴史、「人道支援の現状」を深く学ぶ。



サステナビリティ

宗教 / 多文化共生 / その他

マレーシア・ボルネオ
【留学先大学】
スウィンバーン工科大学

他民族・他宗教国家として、多様な価値観と文化が融合しているマレーシア。生物多様性が特徴のボルネオ島の熱帯雨林で、「開発とサステナビリティの両立」について学習する。



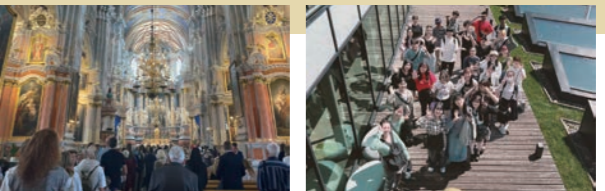
※社会情勢の影響により派遣中止中

Student's voice

**留学を機に変化した平和の概念
国際関係を学び、対立原因を問う**

グローバル・リベラルアーツ学部 2年
木村 友さん
(埼玉県私立自由の森学園高等学校 出身)

留学前、リトアニア駐日大使から「平和は“守る”もの」と伺い、平和は“願う”ものだと思い込んでいた私は強い衝撃を受けました。留学中もその衝撃が忘れられず、現地大学生に聞いてみたところ、その人の答えも平和は“守る”ものでした。自分と同世代の人が平和を自分事として捉えており、平和に対する重みの違いを実感する出来事でした。この経験から平和の概念に対する認識が変化しただ



けではなく、国際関係学への興味も湧きました。紛争や戦争の根本原因は、人が譲れない部分における齟齬から生じる対立にあるのではないかと、そして、もしその部分を互いに尊重することができれば、平和につながるのではないかと考えるようになりました。こうした問いは自分一人では思いつかなかった視点であり、留学の大きな成果であると感じています。

Study Abroad



2回目の海外経験

見つけたテーマを深く、世界で読み解いていく 3年次後期の留学

3年次後期には、全学生が留学し、現地の学生と共に学びます。海外スタディ・ツアーや1・2年次の学びを通して見つけた自分の研究テーマを、さらに深めたり、幅を広げたりすることができる大学を選ぶことになります。どの大学も学生数が本学と同規模で、教員と学生、学生間の距離が近く、留学生の受け入れや対応もきめ細かに行われています。これまでアメリカ・ニューヨーク州立大学(SUNY)への留学を基本としていましたが、新たな留学先が拡充します。SUNYへの留学チャンスはそのまま、2026年度から韓国、リトアニア、マレーシア、フィリピンの4大学が追加となります。

 **SUNY** The State University of New York ニューヨーク州立大学



SUNY Fredonia
ニューヨーク州最西部、エリー湖畔
特色ある分野: 環境問題 / 多民族研究



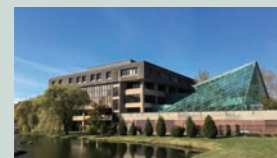
SUNY Geneseo
ニューヨーク州西部
特色ある分野: 戦争・平和研究 / 宗教学 / 都市問題



SUNY Cortland
ニューヨーク州中部
特色ある分野: 平和研究 / 国際関係学 / 歴史学



SUNY Oswego
ニューヨーク州中央部北西
特色ある分野: 女性学・ジェンダー学 / 国際関係学 / 国際経済学



SUNY New Paltz
ニューヨーク州東部、ハドソン川流域
特色ある分野: 政治学・国際関係論 / ユダヤ研究 / アジア研究 / 大学入学準備課程併設(Pathway)



Purchase College
ニューヨーク州南部(ウェストチェスター)
特色ある分野: 美術史学 / 環境問題 / 歴史学



SUNY Old Westbury
ニューヨーク州南部(ロングアイランド)
特色ある分野: 移民と社会 / 哲学と宗教 / 歴史学



SUNY Mohawk Valley Community College
ニューヨーク州中央部
特色ある分野: ビジネス / 人文学 / 芸術



SUNY Korea
《韓国》
ニューヨーク州立大学韓国校



Vytautas Magnus University
《リトアニア》
ヴィータウタス・マグナス大学



Swinburne University of Technology, Sarawak
《マレーシア》
スウィンバーン工科大学サラワク校



Lapulapu-Cebu International College
《フィリピン》
ラブラブ・セブ国際大学

■ 必要な英語力スコアと留学費用のめやす

難	英語スコア		留学費用							
	Duolingo	TOEFL ITP	350	300	250	200	150	100	50万円	
難	—	TOEFL 550~	🇺🇸 SUNY New Paltz 330万円			🇺🇸 Swinburne 128万円				
	Duolingo 105~	or TOEFL 550~	🇺🇸 SUNY Fredonia 331万円		🇺🇸 SUNY Geneseo 313万円		🇰🇷 SUNY Korea 226万円			
やや難	Duolingo 100~	or TOEFL 530~	🇺🇸 SUNY Old Westbury 322万円		🇺🇸 SUNY Purchase 307万円		🇺🇸 SUNY Oswego 285万円		🇱🇹 Vytautas Magnus 100万円	
	独自試験 or TOEFL 61 or IELTS 5.5		🇺🇸 community college SUNY Mohawk Valley C.C. 201万円							
標準	Duolingo 90~	or TOEFL 530~	🇺🇸 SUNY Cortland 268万円						🇵🇭 Lapulapu-Cebu 114万円	
	Duolingo 85~	or TOEFL 500~	🇺🇸 ESL SUNY New Paltz/ESL 306万円			🇰🇷 SUNY Korea/ESL 123万円		🇵🇭 ESL Lapulapu-Cebu/ESL 114万円		
	語学基準なし									

留学費用は概算の推計額で、現地で必要な費用は、「授業料」「授業料以外の大学が求める経費」「寮費・食費(寮が食事つきでない場合は一般的な食費)」、国内で必要な費用は、「往復航空券代」「ビザ取得費用」「本学指定の海外傷害保険」を計上しています。アメリカ(SUNY)は1\$=150円、韓国は1₩=0.106円、リトアニアは1€=170円、マレーシアは1リンギット=32円で換算。なお、フィリピンは全て円建てであるので為替変動の影響は受けません。

※今後、当該大学の学費改定や、為替レート、物価上昇などにより変動が想定されます。なお、SUNYの一部のキャンパスでは全員に一定額の奨学金が支給されており、上記の費用はそれを控除した額ですが、この措置は、今後、当該キャンパスの方針で変更が生ずる場合があります。



Student's voice

留学先の勉強と卒業研究の両立でメンタルと自立学習の意識が成長

グローバル・リベラルアーツ学部 4年
森井 唯花さん
(愛知県私立名古屋国際高等学校 出身)

私が留学先を選んだのはSUNYのCortlandです。現地で履修した5科目のうち「Human Communication」が最も印象に残っています。内容はアメリカの文化的背景や英語と中国語との言語比較などで、釜田ゼミで社会言語学を学んでいた私には、とても興味深いものでした。

留学期間が偶然にも卒業研究の調査期間と重なったことで、現地学生にアンケートをとり、その結果を卒業研究に反映させようと思



つきました。見知らぬ学生にアンケートを依頼するのは非常に緊張しましたが、諦めることなく無事にまとめられた時に達成感を得ることができました。半年の留学は私のメンタルを成長させ、自立学習の意識も高まりました。卒業研究も「日本人とアメリカ人の大学生活で使用される依頼表現からみるコミュニケーションの違い」という論文にまとめることができ、自分に自信ができました。

GLAでの学びが、自分の視野と可能性を大きく広げる。
その力が、多様な進路や未来へとつながっていきます。

海外協力隊員



大谷 翠さん
(GLA学部 2025年卒)
勤務先
JICA海外協力隊員・セネガル

GLA学部で培った「問い続ける力」を支えに、ジェンダー平等の達成をめざして専門性を深めていきます

少人数制の環境で仲間と深く学べることに魅力を感じ、GLA学部に入學しました。幅広い分野を学ぶ中で社会学に関心を持ち、ゼミでは男性のジェンダー問題をテーマに卒業論文に取り組みました。「当たり前を問い直す力」や「答えのない問いに向き合う姿勢」を身につけられたことは、今の自分の大きな土台になっています。現在はJICA海外協力隊として西アフリカに赴任し、女性の自立支援事業に携わっています。食品加工や農業に取り組む女性グループの活動を支え、収入向上につながる支援を行っています。現地で生活を共にしながら信頼関係を築く日々は、学びを実践へとつなげる貴重な経験です。応募を決める際には、本学卒業生で協力隊経験者の先輩の「人生の糧になる」という言葉に背中を押されました。将来は大学院でジェンダーと開発分野をさらに学び、国際協力の現場でジェンダー平等に貢献できる専門家を目指したいと考えています。

企業



北方 涉さん
(GLA学部 2026年卒)
敬愛学園高等学校出身
勤務先
株式会社 建設技術研究所
東京本社営業部東京事務所

GLA学部で育んだ対話力と幅広い学びを原動力に、社会を支える仕事へ前向きに挑戦しています

建設コンサルタント会社の営業職として、主に自治体をはじめとした官公庁向けの公共インフラやまちづくりの提案に携わっています。営業の仕事は、提案・積算・入札などの受注活動だけでなく、戦略立案や顧客対応、リスク管理、契約後の業務マネジメントまで幅広く担っています。現在は先輩社員に同行し、課題のヒアリングや提案手法を実践的に学んでいます。GLA学部で環境問題や生物多様性を学んだ経験は、環境保全とインフラ整備の両立を考えるこの仕事への関心につながりました。ゼミ活動で培った対話力や、自分の考えを整理して伝える力は営業の現場でも役立っています。留学で身につけた主体性も、お客様との信頼関係づくりに生きています。専攻とは異なる分野で働く今も、GLA学部での幅広い学びが新しい知識の吸収を支えています。多様な価値観に触れながら物事を多角的に考える力は、地域ごとの課題やニーズを理解し、最適な提案を行ううえで大きな強みになっています。

外務省在外公館派遣員



友近 菜那さん
(GLA学部4年)
東京都立柏江高等学校出身
勤務先
在バーレーン王国日本国大使館

GLA学部で身につけた力を大使館での実務に生かし、海外で働く一歩を踏み出しました

神田外語大学には「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」授業があり、留学制度も充実しています。幼い頃から外交官に憧れ、ここでなら夢に近づけると感じてGLA学部へ進学しました。入学後に外務省在外公館派遣員制度を知り、大使館で働く機会だと思い志望。派遣先の在バーレーン王国日本国大使館では事務業務を担当し、出張手配や生活支援、広報イベントの運営など幅広い業務に携わりました。特に印象深いのは、大阪・関西万博2025関連イベントです。赴任直後ながらゲスト対応や撮影同行を任せられ、周囲の支えの中でやり遂げました。大使館の仕事には地道な調整や確認も多く、日本の印象を左右する責任の重さも実感しました。現地スタッフと協働しながら英語で円滑に伝える力は、GLAで培った大きな財産です。この経験を通して、今後も海外と関わる環境で働きたいという思いが一層強まりました。

企業



奥村 彩夏さん
(GLA学部 2026年卒)
美濃加茂高等学校出身
勤務先
株式会社フジクラ
生産管理部
事務系総合職

ボスキャリで拓かれた私の望む未来。グローバル政治を注視しながら生産活動の効率向上に努めています

情報通信メーカーで電子機器の生産管理部社員として、生産活動の効率向上を目標に、顧客ニーズを予測しながら在庫やコストを管理しています。当社の活動拠点は世界各地にあるため、商品の生産や物流に大きく影響する中東情勢には継続的な注視が必要です。こうしたグローバル政治に対する理解や知識には、GLA学部の4年間で培った多角的で柔軟な思考力と、海外スタディ・ツアーで訪れたエルサレムでの経験が生きています。当社に就職したきっかけは、3年次のアメリカ留学中に参加したボスキャリ[※]でした。ボスキャリでの就職活動は競争率が圧倒的に低いと聞いて絶好のチャンスだと思い、事前の自己分析で把握しておいた自身の強みをアピールしました。結果として、私を「グローバルで活躍できる人材」と評価していただいた企業に入社でき、自分が思い描いた社会人生活を送れています。採用してくださった方々の期待に沿えるよう、「毎日が挑戦!」と姿勢を正して業務に臨んでいます。

※「ボストン・キャリア・フォーラム」の略称。毎年秋に米国ボストンで開催される日英バイリンガルを対象とした世界最大級の就職イベント。

大学院



四宮 結香さん
(GLA学部 2025年卒)
駒込高等学校出身

所属
青山学院大学
国際政治経済学専攻 国際政治学専攻
グローバルガバナンスコース

漠然としていた思いが、ここでの学びを通して、確かな目標へと変わった

入学前から国際協力や国際関係学に関心はありましたが、具体的に深めたい分野は明確ではありませんでした。その思いを具体化してくれたのがGLA学部での学びです。講義を通して「紛争後社会における平和」に関心を持ち、ボスニアや民族、歴史へと興味が広がりました。留学先のSUNY Cortland校で国際関係論を履修し、ボスニア出身教員の講演に触れたことで、平和構築の重要性と意義を強く実感しました。卒業研究ではボスニア・ヘルツェゴヴィナの平和構築をテーマに、国民と国際社会が関わる「ハイブリッドな平和構築」の有効性を検討。現在は大学院でその関心をさらに深め、修士論文に向けて研究に取り組んでいます。問い続ける姿勢を大切に、平和構築に貢献する道を探りたいと考えています。

大学院



中島クラレンズさん
(GLA学部 2026年卒)
松蔭大学附属松蔭高等学校出身

所属
国際大学
国際関係学専攻 国際関係学専攻
国際開発学プログラム

現地で見た社会課題とGLA学部での経験が研究の原点になりました

大学院で、フィリピンでの草の根フェアトレード活動が地域へ与える影響を研究しています。大学1年次にフィリピンで参加したインターンシップで、廃棄物を再活用したフェアトレードに出会ったことが研究の原点です。またインドでのスタディ・ツアーでは、現地に足を運び、自分の目で見て学ぶ大切さを実感。その後、神田外語大学内でフェアトレード推進団体「IRIS」を立ち上げました。活動を続ける中で、現地の仕組みや課題をもっと体系的に知りたいという思いが強くなり、大学院進学を決めました。GLA学部では、経済、社会、文化など多様な視点から課題を捉える力や、ディスカッションを通して本質的な問いを見つける力が身につきました。育んだ主体性と行動力を生かし、将来は公平・公正な取引のあり方を、ビジネスの現場で実践していきたいです。

主な内定先

株式会社ABI/株式会社アルティコ/イー・ギャランティ株式会社/イオンモール株式会社/イオンリテール株式会社/株式会社伊藤園/株式会社IDOM/株式会社インター・バル/株式会社インターファーム/株式会社Wiz/株式会社オープンハウスグループ/株式会社大谷山荘/株式会社絆助/株式会社ギークリー/空港ターミナルサービス株式会社/株式会社グリフィン/株式会社クレディセゾン/株式会社建設技術研究所/コクサイエアロマリン株式会社/株式会社CJネクスト/株式会社ジザイ/株式会社シーネット/株式会社セキュア/ソシオークホールディングス株式会社/株式会社土屋製菓/株式会社テイクアンドグヴ・ニュース/東京海上日動システムズ株式会社/株式会社ニトリ/ニッカ株式会社/NAAセーフティサポート株式会社/株式会社ネクステップ・ソリューションズ/パークタワーホテル株式会社/株式会社八十二銀行/ハクゾウメディカル株式会社/羽田空港国際旅客サービス株式会社/株式会社ビッグ・エー/株式会社ビジネス・ガイド社/株式会社フジクラ/株式会社フォンス/福井県大野市役所/ブルガリ・ジャパン株式会社/株式会社ブルックスプラザーズジャパン/株式会社マネジメントソリューションズ/丸紅ロジスティクス株式会社/株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション/株式会社ラウンドワンジャパン/レオン自動車株式会社/リゾートトラスト株式会社/株式会社西遊旅行/日鉄物産株式会社/日本航空株式会社/株式会社JALスカイ/井関農機株式会社/国際自動車株式会社(kmグループ)/三菱ふそうトラック・バス株式会社/学校法人神戸学園/ANA(全日本空輸株式会社)/ANAシステムズ株式会社/DXCテクノロジーズ・ジャパン株式会社/ECLエージェンシー株式会社/FPT Software Company Limited/H.I.S.ホテルホールディングス株式会社/株式会社GA technologies

学費・奨学金

グローバル・リベラルアーツ学部 学納金額

	1年次	2年次	長期留学年次	4年次	計
入学金	¥200,000	—	—	—	¥200,000
授業料	¥1,160,000	¥1,160,000	¥580,000*	¥1,160,000	¥4,060,000
留学管理料	—	—	¥50,000*	—	¥50,000
教育充実費	¥350,000	¥430,000	¥430,000	¥430,000	¥1,640,000
学友会費	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥20,000
いしずる会費	¥10,000	¥10,000	¥10,000	¥10,000	¥40,000
計	¥1,725,000	¥1,605,000	¥1,075,000	¥1,605,000	¥6,010,000

※3年次には全員1学期間の長期留学を行います。留学期間に相当する3年次後期の本学部の授業料(580,000円)は免除となりますが、留学管理料として50,000円の納入が必要となります。この他に、留学のための費用がかかります。渡航先により異なりますが、留学先に納入する学費・滞在費・保険料等で最大22,000アメリカドル、ビザ取得・渡航にかかる費用・海外留学保険料・サポート費用等として最大500,000円かかる見込みです。なお、これらの費用は物価や為替レートの変動、留学先大学の規定変更等により、変わる可能性があります。

海外スタディ・ツアー費用支援制度

1年次の海外スタディ・ツアーの費用を全額負担

GLA学部での学びにおいて極めて重要な位置づけである「海外スタディ・ツアー」(1年次前期)の留学費用(渡航費・現地授業料等)を神田外語大学が全額負担します。

グローバル・リベラルアーツ学部 独自の奨学金

■入学前の奨学金 GLA Freshman Scholarship〈特待生スカラシップ〉

給付金額 最大2,000,000円/給付対象人数15名以内

3年次後期の留学費用を支援

3年次後期の留学費用を支援します。

※一般選抜すべての入試区分において成績上位で合格し、入学した者が対象。内容が変更となる場合がありますので、本学ウェブサイトをご確認ください。

■入学後の奨学金 GLA Outstanding Student Scholarship〈成績優秀者スカラシップ〉

給付金額 1,000,000円/給付対象人数6名以内

Global Liberal Arts for Peaceの学びを支援

2年次修了時の成績優秀者に給付する奨学金です。今後も努力を続け、GLA学部のリーダー的な役割として活躍することを期待して設置しています。

※両方の奨学金を受給することはできません。

グローバル・リベラルアーツ学部の授業科目

Curriculum

[学科及び各科目群で定めた単位数]

科目群名		単位数
外国語科目	英語科目	27
	選択外国語科目	2
GLA基礎科目		17
基礎教養科目	A群	8
	B群	6
専門教養科目	Humanities(人間と文化)	14
	Societies(社会と共生)	
	Global Studies(グローバル・スタディーズ)	
留学科目		16
演習科目	基礎演習	3
	講読演習	6
	研究演習	12(卒業研究4単位含む)
自由選択科目		18
合計		129単位

外国語科目

授業科目の名称	履修年次	必修単位数	選択必修単位数	選択単位数
Academic Reading (a)	1	1		
Academic Reading (b)	1	2		
Academic Writing (a)	1	1		
Academic Writing (b)	1	2		
Academic Discussions & Presentations (a)	1	1		
Academic Discussions & Presentations (b)	1	2		
English for Global Discovery	1	2		
Self-Directed Learning	1	1		
TOEFL ITP 演習	1	1		
Critical Reading (a)	2	2		
Critical Reading (b)	2	2		
Advanced Writing (a)	2	2		
Advanced Writing (b)	2	2		
English for GLA I (Introduction to Global Issues)	2・3・4		2	
English for GLA II (Media Literacy)	2・3・4		2	
English for GLA III (Global Communication)	2・3・4		2	
English for GLA IV (Peace Studies)	2・3・4		2	
English for GLA V (Sustainable Development Goals)	2・3・4		2	

中国語 I(a)	2・3・4		2	
中国語 I(b)	2・4			2
スペイン語 I(a)	2・3・4		2	
スペイン語 I(b)	2・4			2
韓国語 I(a)	2・3・4		2	
韓国語 I(b)	2・4			2
フランス語 I(a)	2・3・4		2	
フランス語 I(b)	2・4			2
ドイツ語 I(a)	2・3・4		2	
ドイツ語 I(b)	2・4			2
ロシア語 I(a)	2・3・4		2	
ロシア語 I(b)	2・4			2
イタリア語 I(a)	2・3・4		2	
イタリア語 I(b)	2・4			2
アラビア語 I(a)	2・3・4		2	
アラビア語 I(b)	2・4			2
ポルトガル語 I(a)	2・3・4		2	
ポルトガル語 I(b)	2・4			2
ベトナム語 I(a)	2・3・4		2	
ベトナム語 I(b)	2・4			2
インドネシア語 I(a)	2・3・4		2	
インドネシア語 I(b)	2・4			2
タイ語 I(a)	2・3・4		2	
タイ語 I(b)	2・4			2
中国語 II(a)	3・4		1	
中国語 II(b)	4			1
スペイン語 II(a)	3・4		1	
スペイン語 II(b)	4			1
韓国語 II(a)	3・4		1	
韓国語 II(b)	4			1
フランス語 II(a)	3・4		1	
フランス語 II(b)	4			1
ドイツ語 II(a)	3・4		1	
ドイツ語 II(b)	4			1
ロシア語 II(a)	3・4		1	
ロシア語 II(b)	4			1
イタリア語 II(a)	3・4		1	
イタリア語 II(b)	4			1
アラビア語 II(a)	3・4		1	
アラビア語 II(b)	4			1
ポルトガル語 II(a)	3・4		1	
ポルトガル語 II(b)	4			1
ベトナム語 II(a)	3・4		1	
ベトナム語 II(b)	4			1
インドネシア語 II(a)	3・4		1	
インドネシア語 II(b)	4			1
タイ語 II(a)	3・4		1	
タイ語 II(b)	4			1
中国語 III(a)	4		1	
中国語 III(b)	4			1
スペイン語 III(a)	4		1	
スペイン語 III(b)	4			1
韓国語 III(a)	4		1	
韓国語 III(b)	4			1
フランス語 III(a)	4		1	
フランス語 III(b)	4			1
ドイツ語 III(a)	4		1	
ドイツ語 III(b)	4			1
イタリア語 III(a)	4		1	
イタリア語 III(b)	4			1

GLA基礎科目

授業科目の名称	履修年次	必修単位数	選択必修単位数	選択単位数
グローバル・ディスカバリー I	1	1		
グローバル・ディスカバリー II	1	1		
グローバル・ディスカバリー (フィールドワーク)	1	4		
グローバル・リベラルアーツ入門 I	1	1		
グローバル・リベラルアーツ入門 II	1	2		
グローバル・ヒストリー I	1	2		
グローバル・ヒストリー II	2	2		
キャリアデザイン (GLA)	2	2		
グローバル・キャリア	3	2		

基礎教養科目

授業科目の名称	履修年次	必修単位数	選択必修単位数	選択単位数
歴史学 I	2・3・4		2	
歴史学 II	1・2・4		2	
哲学 I	2・3・4		2	
哲学 II	1・2・4		2	
倫理学 I	2・3・4		2	
倫理学 II	1・2・4		2	
宗教学 I	2・3・4		2	
宗教学 II	1・2・4		2	
文学 I	2・3・4		2	
文学 II	1・2・4		2	
美術史学 I	2・3・4		2	
美術史学 II	1・2・4		2	
言語学 I	2・3・4		2	
言語学 II	1・2・4		2	
心理学 I	2・3・4		2	
心理学 II	1・2・4		2	
教育学	2・3・4		2	
社会学 I	2・3・4		2	
社会学 II	1・2・4		2	
法学 I	2・3・4		2	
法学 II	1・2・4		2	
憲法 I	2・3・4		2	
憲法 II	1・2・4		2	
政治学 I	2・3・4		2	
政治学 II	1・2・4		2	
経済学 I	2・3・4		2	
経済学 II	1・2・4		2	
経営学 I	2・3・4		2	
経営学 II	1・2・4		2	
統計学 I	2・3・4		2	
統計学 II	1・2・4		2	
化学 I	2・3・4		2	
化学 II	1・2・4		2	
物理学 I	2・3・4		2	
物理学 II	1・2・4		2	
生物学 I	2・3・4		2	
生物学 II	1・2・4		2	
自然科学概論 I	2・3・4		2	
自然科学概論 II	1・2・4		2	
数的思考法	2・3・4		2	
デジタル・シチズンシップ論	2・3・4		2	
データ・サイエンス概論	2・4		2	
コンピュータ・サイエンス概論	2・4		2	
ビッグデータ解析論	3・4		2	
エビデンスと評価	3・4		2	

専門教養科目

授業科目の名称	履修年次	必修単位数	選択必修単位数	選択単位数
Humanities(人間と文化)				
宗教文化論I	2・3・4		2	
宗教文化論II	1・2・4		2	
芸術文化論I	1・2・4		2	
芸術文化論II	2・3・4		2	
人間と文学	2・3・4		2	
人間と思想	1・2・4		2	
世界近現代史	1・2・4		2	
文化人類学	1・2・4		2	
Societies(社会と共生)				
共生社会学	2・3・4		2	
社会と多様性I	2・3・4		2	
社会と多様性II	1・2・4		2	
社会とサステナビリティ	1・2・4		2	
現代社会とイノベーション	2・3・4		2	
Language, Culture and Communication	1・2・4		2	
デジタル・メディアと社会	2・3・4		2	
多文化共生コミュニケーション	1・2・4		2	
Global Studies(グローバル・スタディーズ)				
グローバル・ガバナンスI	2・3・4		2	
グローバル・ガバナンスII	1・2・4		2	
地域とグローバル世界I	2・3・4		2	
地域とグローバル世界II	1・2・4		2	
グローバル平和論	2・3・4		2	
国際法	1・2・4		2	
Law and Institutions in Global Society	2・3・4		2	
国際開発論	1・2・4		2	

演習科目

授業科目の名称	履修年次	必修単位数	選択必修単位数	選択単位数
基礎演習				
アカデミック・スキルズI	1	1		
アカデミック・スキルズII	1	2		
講読(HUM)(宗教文化)	2・3・4		2	
講読(HUM)(芸術文化)	2・4		2	
講読(HUM)(文学/思想)	2・3・4		2	
講読(HUM)(歴史)	2・3・4		2	
講読(SOC)(社会と多様性)	2・4		2	
講読(SOC)(社会とサステナビリティ)	2・3・4		2	
講読(SOC)(現代社会とイノベーション)	2・4		2	
講読(SOC)(多文化共生コミュニケーション)	2・3・4		2	
講読(GS)(グローバル・ガバナンス)	2・3・4		2	
講読(GS)(地域とグローバル世界)	2・3・4		2	
講読(GS)(グローバル平和論)	2・4		2	
研究演習I	2	2		
研究演習II	3	2		
研究演習III	4	4		

卒業研究

授業科目の名称	履修年次	必修単位数	選択必修単位数	選択単位数
卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)	4	4		

自由選択科目

TOEFL科目、TOEIC科目、時事英語、ビジネス英語、キャリア科目 他

卒業要件及び履修方法

1. 所定の科目別単位数を修得し、129単位以上修得しなければなりません。英語科目:27単位、選択外国語科目:2単位、GLA基礎科目:17単位、基礎教養科目:A群8単位、B群6単位、専門教養科目:14単位、留学科目:16単位、演習科目:基礎演習3単位、講読演習6単位、研究演習8単位、自由選択科目:18単位のほか卒業研究:4単位を修得することが必要です。
2. 履修登録単位数の上限:22単位(1年次後期、2年次前期・後期、3年次前期)、30単位(4年次前期・後期)とします。※1年次前期は必修科目のみを履修
3. 3年次後期留学:16単位
4. 3年次への進級基準単位があります。

他大学での履修について

3年次の後期に提携する外国の大学(当面はニューヨーク州立大学(SUNY)を予定)に留学した際に修得した単位について、最大16単位まで卒業要件単位として認定します。その他、入学前及び在学中に他の大学及び大学設置基準等に定める教育施設で履修した授業科目について、教育上有益と認められる場合は、学生からの申請を受けて講義内容を確認のうえ、単位認定します(提携する外国の大学での修得単位と合計して30単位を上限とします)。

カリキュラムと科目について

・English for GLA I~V(「Introduction to Global Issues」「Media Literacy」「Global Communication」「Peace Studies」「Sustainable Development Goals」)などの英語専門科目を通して英語力を磨くだけでなく、批判的思考力、効果的なコミュニケーション・スキルを身につけ、また他の学生との協働学習を通して諸問題への理解を深めながら学習を進めます。
 ・データ収集、整理、分析及び可視化に関する手法を身につけ、実際のデータをを用いて統計学的に分析するプロセスを学ぶ「データ・サイエンス概論」や、ビッグデータ解析の手法を身につけるとともに、人工知能(AI)の働きに関する知識を習得する「ビッグデータ解析論」など、幅広い教養を身につけるため文系、理系の垣根を越えた科目を用意しています。条件を満たすと、「KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム」を修了することができます。
 ・1年次から現地に飛び込み世界で起きていることを五感で感じ、自身の中で解決したいと考える課題を明確にし、幅広い学びの中で本質を見抜く力と自分の専門分野を明確にします。ニューヨーク州立大学への留学を通して、さまざまな思考法を学び、自身で考える課題解決を前進させ4年間で身につけた知識や教養、問題意識、そのアプローチ方法を総動員して、自分のスタンスに基づく一つの解を導き出し、卒業研究としてまとめます。

想定される卒業後の進路

多文化共生が求められるグローバル時代において、本学の建学の理念を体現できる人材を育成していきます。高度な外国語運用能力や多分野にわたる教養を身につけ、多角的な視点で物事を捉えることができる次世代のリーダーを送り出します。外務省や国際機関、またメーカーやITベンチャーなどグローバル企業での活躍が期待できます。グローバル企業、国家公務員(国際交流担当部門)、外務省専門職員、独立行政法人職員、国際機関職員、NGO職員、マスコミ・出版、大学院進学などが想定されます。

自由選択科目

Curriculum

英語学概論
英国研究入門Ⅰ・Ⅱ
米国研究入門Ⅰ・Ⅱ
オセアニア研究入門Ⅰ・Ⅱ
カナダ研究入門Ⅰ・Ⅱ
現代英文法
英語音韻論
英語統語論Ⅰ・Ⅱ
英語音声学
自然科学としての言語学入門
英語通訳法Ⅰ・Ⅱ
世界の英語
社会言語学
第二言語習得研究
認知発達と英語教育
児童英語教育論
英国史概論Ⅰ・Ⅱ
英国社会・文化論Ⅰ・Ⅱ
英文学の歩みⅠ・Ⅱ
英連邦社会・文化論Ⅰ・Ⅱ
米国史概論Ⅰ・Ⅱ
米国社会論Ⅰ・Ⅱ
米国文化論Ⅰ・Ⅱ
米文学の歩みⅠ・Ⅱ
米国政治・外交論Ⅰ・Ⅱ
米国経済論Ⅰ・Ⅱ
Public Speaking
Approaches and Strategies in Learning English
Outline of English Phonetics
Japanese Language and Culture
Introduction to Language and Communication
Japanese Popular CultureⅠ・Ⅱ
The History of Modern Japan
Japanese Literature
International Relations: Japan in a Global Context
Japanese Politics
Debate
TESOL海外研究
Topics in British StudiesⅠ・Ⅱ
History of the United StatesⅠ・Ⅱ
Topics in Oceanian StudiesⅠ・Ⅱ
Topics in Canadian StudiesⅠ・Ⅱ
Topics in American StudiesⅠ・Ⅱ
Survey of American and English Literature
Themes in American and English Literature
Topics in Sociolinguistics
Issues in Second Language Acquisition
Issues in Applied Linguistics
Pedagogies in Oral Communication
英国文化実地研究
米国文化実地研究
オセアニア文化実地研究
カナダ文化実地研究
英語オーラルインタープリテーション
英語を歴史的に見る
日英翻訳法Ⅰ・Ⅱ
英日翻訳法Ⅰ・Ⅱ
国際共通語としての英語
日本語から英語を見る
英語意味論・語用論

英語語法研究
英語談話分析
英語会話分析
児童英語指導法(Reading & Writing)
児童英語指導法(Listening & Speaking)
外国語評価法
第二言語語用論
応用言語学
英文法指導研究
英語授業研究
英米法と社会Ⅰ・Ⅱ
日米関係論Ⅰ・Ⅱ
地域比較文化論Ⅰ・Ⅱ
英文学と文化Ⅰ・Ⅱ
米文学と文化Ⅰ・Ⅱ
英語圏歴史・政治講読Ⅰ・Ⅱ
ダイバーシティ研究Ⅰ・Ⅱ
フィルム・スタディーズⅠ・Ⅱ
アジア研究入門
中国社会事情Ⅰ・Ⅱ
中国語学概論Ⅰ・Ⅱ
中国思想概論Ⅰ・Ⅱ
中国文化概論Ⅰ・Ⅱ
中国文学概論Ⅰ・Ⅱ
中国史概論Ⅰ・Ⅱ
中国現代史Ⅰ・Ⅱ
中国経済概論Ⅰ・Ⅱ
中国政治外交概論Ⅰ・Ⅱ
中国語文法論Ⅰ・Ⅱ
中国語音韻論Ⅰ・Ⅱ
中国語音声学Ⅰ・Ⅱ
中国語学研究Ⅰ・Ⅱ
広東語Ⅰ・Ⅱ
福建語Ⅰ・Ⅱ
ビジネス中国語Ⅰ・Ⅱ
中国語映像翻訳法Ⅰ・Ⅱ
中国語通訳法Ⅰ・Ⅱ
日中比較言語Ⅰ・Ⅱ
中国文学史Ⅰ・Ⅱ
日中関係論Ⅰ・Ⅱ
中国現代文学研究Ⅰ・Ⅱ
中国文化研究Ⅰ・Ⅱ
中国社会学研究Ⅰ・Ⅱ
中国経済研究Ⅰ・Ⅱ
中国政治外交研究Ⅰ・Ⅱ
海外華人論Ⅰ・Ⅱ
中国古典講読Ⅰ・Ⅱ
中国文学研究Ⅰ・Ⅱ
中国語翻訳法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
中国語表現法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
韓国文化概論Ⅰ・Ⅱ
韓国史概論Ⅰ・Ⅱ
韓国語学概論Ⅰ・Ⅱ
韓国語文法論Ⅰ・Ⅱ
日韓対照言語研究Ⅰ・Ⅱ
韓国語社会言語学Ⅰ・Ⅱ
韓国語史Ⅰ・Ⅱ
日韓コミュニケーション研究Ⅰ・Ⅱ
韓国語映像翻訳法Ⅰ・Ⅱ
日韓関係史Ⅰ・Ⅱ

韓国の宗教・社会Ⅰ・Ⅱ
韓国映像文化論Ⅰ・Ⅱ
韓国文化特定研究Ⅰ・Ⅱ
韓国政治論Ⅰ・Ⅱ
韓国経済論Ⅰ・Ⅱ
韓国経済特講Ⅰ・Ⅱ
韓国社会経済概論Ⅰ・Ⅱ
韓国企業研究Ⅰ・Ⅱ
韓国近代史Ⅰ・Ⅱ
韓国史特講Ⅰ・Ⅱ
韓国現代文学研究Ⅰ・Ⅱ
東南アジア研究入門Ⅰ・Ⅱ
東南アジア地域研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
東南アジア宗教論Ⅰ・Ⅱ
東南アジアの宗教と文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
東南アジアの芸術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
東南アジア言語概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
東南アジア史Ⅰ・Ⅱ
東南アジア社会論Ⅰ・Ⅱ
東南アジア政治経済論Ⅰ・Ⅱ
インドネシア研究入門
インドネシアの民族・地理
インドネシアの歴史
インドネシアの文化・芸術
インドネシアの宗教・社会
インドネシアの政治・経済Ⅰ・Ⅱ
ベトナム研究入門
ベトナムの文化・芸術
ベトナムの民族・地理
ベトナムの歴史
ベトナムの宗教・社会
ベトナムの政治・経済Ⅰ・Ⅱ
タイ研究入門
タイの文化・芸術
タイの民族・地理
タイの歴史
タイの宗教・社会
タイの政治・経済Ⅰ・Ⅱ
Topics in Language and Culture (東南アジア・イベロ)
イベロアメリカ研究入門
イベリア史概論Ⅰ・Ⅱ
ラテンアメリカ史概論Ⅰ・Ⅱ
スペイン文学史Ⅰ・Ⅱ
スペイン語学概論Ⅰ・Ⅱ
西洋古典語概論Ⅰ・Ⅱ(ラテン語)
西洋古典語概論Ⅲ・Ⅳ(古典ギリシア語)
スペイン語音声学Ⅰ・Ⅱ
スペイン語の歴史と地理Ⅰ・Ⅱ
日西語対照研究Ⅰ・Ⅱ
現代スペイン文学Ⅰ・Ⅱ
現代ラテンアメリカ文学Ⅰ・Ⅱ
スペイン語翻訳法Ⅰ・Ⅱ
ポルトガル語学概論Ⅰ・Ⅱ
ロマンス語学概論
ラテンアメリカ政治経済論Ⅰ・Ⅱ
ブラジル研究入門
イベロアメリカの法と文化Ⅰ・Ⅱ
現代イベリア研究Ⅰ・Ⅱ
現代ラテンアメリカ研究Ⅰ・Ⅱ

スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ
スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ・Ⅱ
スペイン語通訳法Ⅰ・Ⅱ
スペイン語映像翻訳法Ⅰ・Ⅱ
スペイン語学研究Ⅰ・Ⅱ
スペイン語圏文学研究Ⅰ・Ⅱ
商業スペイン語Ⅰ・Ⅱ
メキシコ研究Ⅰ・Ⅱ
スペイン美術史Ⅰ・Ⅱ
スペイン文化研究Ⅰ・Ⅱ
スペイン時事研究Ⅰ・Ⅱ
ラテンアメリカ時事研究Ⅰ・Ⅱ
ブラジルの歴史
ブラジルの民族・地理
ポルトガル語圏の世界Ⅰ・Ⅱ
ポルトガル語学研究Ⅰ・Ⅱ
ブラジルの文化・芸術
ブラジルの宗教・社会
ブラジルの政治・経済Ⅰ・Ⅱ
ポルトガル語通訳・翻訳法Ⅰ・Ⅱ
ポルトガル語圏総合研究Ⅰ・Ⅱ
国際コミュニケーション入門
コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ
Introduction to Japan Studies
異文化コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ
非言語コミュニケーション論
日本語パブリック・スピーキング
多文化社会コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ
多文化共生論Ⅰ・Ⅱ
組織コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ
ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ
デジタル・メディアと社会Ⅰ・Ⅱ
コミュニケーション研究法Ⅰ・Ⅱ
国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ
国際関係論Ⅰ・Ⅱ
国際関係史Ⅰ・Ⅱ
日本語スモールグループ・コミュニケーション
日本語ディベート
対人コミュニケーション論
Leadership CommunicationⅠ・Ⅱ
メディアリテラシー
メディア文化論Ⅰ・Ⅱ
メディア表現論Ⅰ・Ⅱ
メディア・コミュニケーション表現Ⅰ・Ⅱ
認知言語学入門Ⅰ・Ⅱ
国際開発論Ⅰ・Ⅱ
国際機構論Ⅰ・Ⅱ
国際協力論Ⅰ・Ⅱ
国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ
国際社会論Ⅰ・Ⅱ
国際経営論Ⅰ・Ⅱ
グローバル化と社会Ⅰ・Ⅱ
The History of Premodern Japan
Tourism and Local Cultures of Japan
日本倫理思想史Ⅰ・Ⅱ
日本文学論Ⅰ・Ⅱ
日本文化論Ⅰ・Ⅱ
日本社会論Ⅰ・Ⅱ
日本近代史
日本現代史
日本美術史Ⅰ・Ⅱ
日本大衆文化論
民族・宗教問題研究
多様性とコミュニケーションⅠ・Ⅱ
コミュニケーション論特講Ⅰ・Ⅱ
脳・心とコミュニケーションⅠ・Ⅱ
Media and Japanese Society
フィルム・スタディーズⅠ・Ⅱ

日本外交史
国際経済論Ⅰ・Ⅱ
東アジア政治経済論Ⅰ・Ⅱ
Women's Studies in Japan
企業研究Ⅰ・Ⅱ
簿記会計Ⅰ・Ⅱ
ビジネスリサーチ演習Ⅰ・Ⅱ
キャリアデザインⅡ(応用)
ビジネス・インターンシップ
経営戦略
商法概論Ⅰ・Ⅱ
国際ビジネス法Ⅰ・Ⅱ
企業財務Ⅰ・Ⅱ
マーケティングリサーチ
アントレプレナーシップ論
企業行動論Ⅰ・Ⅱ
児童英語教育実習
日本語学概論
日本語学Ⅰ・Ⅱ
日本語表現法Ⅰ・Ⅱ
日本語教育概論
日本語教授法
日本語教育実習
言語哲学Ⅰ・Ⅱ
心理言語学
通訳・翻訳への招待
英語通訳法Ⅲ・Ⅳ
英語映像翻訳法
通訳演習(a)(b)
翻訳演習(a)(b)
日中通訳法Ⅰ・Ⅱ
日韓・韓日通訳法Ⅰ・Ⅱ
デジタル・メディアとコミュニケーションⅠ・Ⅱ
ソフトウェアデザインⅠ・Ⅱ
プログラミングⅠ・Ⅱ
ウェブデザインⅠ・Ⅱ
グラフィックデザインⅠ・Ⅱ
日本の宗教
日本近代思想史Ⅰ・Ⅱ
比較思想Ⅰ・Ⅱ
キリスト教文化論Ⅰ・Ⅱ
イスラム文化論Ⅰ・Ⅱ
日本芸能史Ⅰ・Ⅱ
文化について考える
民族と文化Ⅰ・Ⅱ
文化人類学概論Ⅰ・Ⅱ
文化人類学研究Ⅰ・Ⅱ
比較文学概論Ⅰ・Ⅱ
文化心理学Ⅰ・Ⅱ
健康科学論
スポーツ文化論Ⅰ・Ⅱ
ジェンダー論
演劇「実技」Ⅰ・Ⅱ
国際社会が見えてくる
国際法Ⅰ・Ⅱ
民法概論Ⅰ・Ⅱ
人権論
法と国際ビジネス
国際平和論Ⅰ・Ⅱ
日本政治論
日本経済論
ヨーロッパ政治経済論Ⅰ・Ⅱ
アフリカ研究入門Ⅰ・Ⅱ
地域研究
社会調査法Ⅰ・Ⅱ
環境科学Ⅰ・Ⅱ

※開講科目は年度によって異なり、変更になる場合があります。

キャリアデザインⅡ(応用)
キャリア開発
ビジネス・インターンシップ
学習支援活動ボランティア
海外実地研修
日本語総合講座Ⅱ
日本語総合講座Ⅳ
日本語総合講座Ⅴ
日本語表現演習
検定試験
TOEFL ITP®480 演習
TOEFL ITP®500 演習
TOEIC®500 演習
TOEIC®600 演習
TOEIC®700 演習
TOEIC®800 演習
TOEIC®900 演習
トライ・外国語 ⅳ)
トライ・ことばと文化
外国語学習における個別学習指導論

※)「トライ・外国語」は、英語を除く外国語(中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、アラビア語、ポルトガル語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語など)について、言語と文化への入門的な役割をする科目です。



GLA学部紹介動画
「GLAをめざす君へ」



グローバル・リベラルアーツ学部
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1
TEL:043-273-2826 FAX:043-273-2988